



未来への約束

成人向
水木×父

未来への約束

- ※この本は非公式の二次創作同人誌です。著作権元との関係は一切ありません。
- ※この本は成人向けの表現が含まれています。18歳以下の購入、閲覧を固く禁じます。
- ※内容の公開、転載、複製、ネットオークションへの出品等を固く禁じます。
- ※本が不要になった場合は、中身が見えないように燃えるゴミとして廃棄してください。
- ※この本はフィクションです。実在する児童への性的接触、加害行為は、法により罰せられます。



あの村での記憶を
取り戻してからは、
失ったものへの
未練が尽きない



鬼太郎を
一人で育てて、

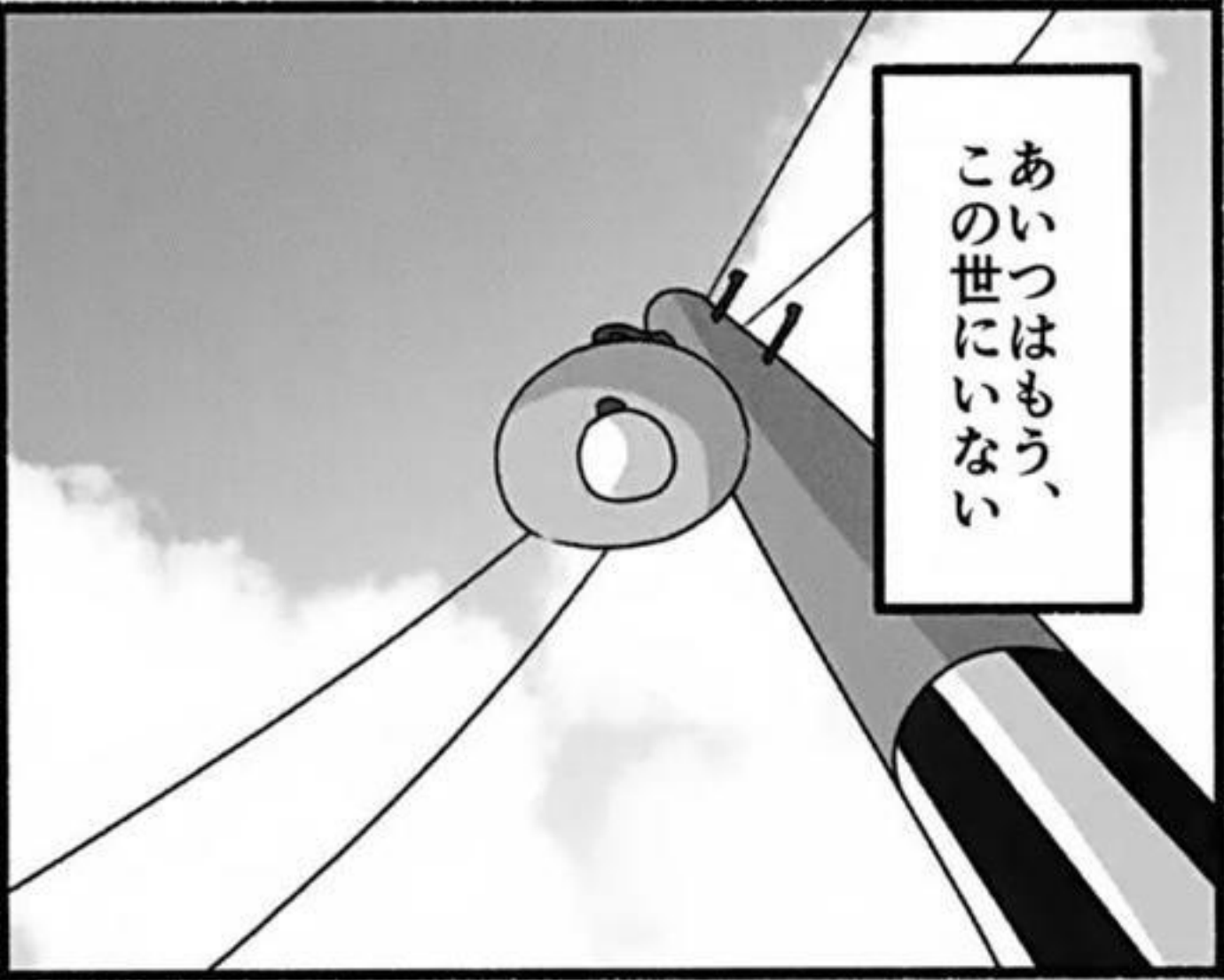
あの子に
物心がついた頃、



桜を背にして
笑う彼の姿が
鮮やかに
思い出された



ゲゲ郎…



あいつはもう、
この世にいない



あの時、あの村で
死んでしまった



鬼太郎と
岩子さんと、
俺を守るために…



…クソっ



俺がともに
背負って
やれていれば…



ああ、
お前も
達者でやれよ

じゃあ、
水木さん

お元気で



これでもう、
俺の役目は
終わっただろう



穏やかな冬の日

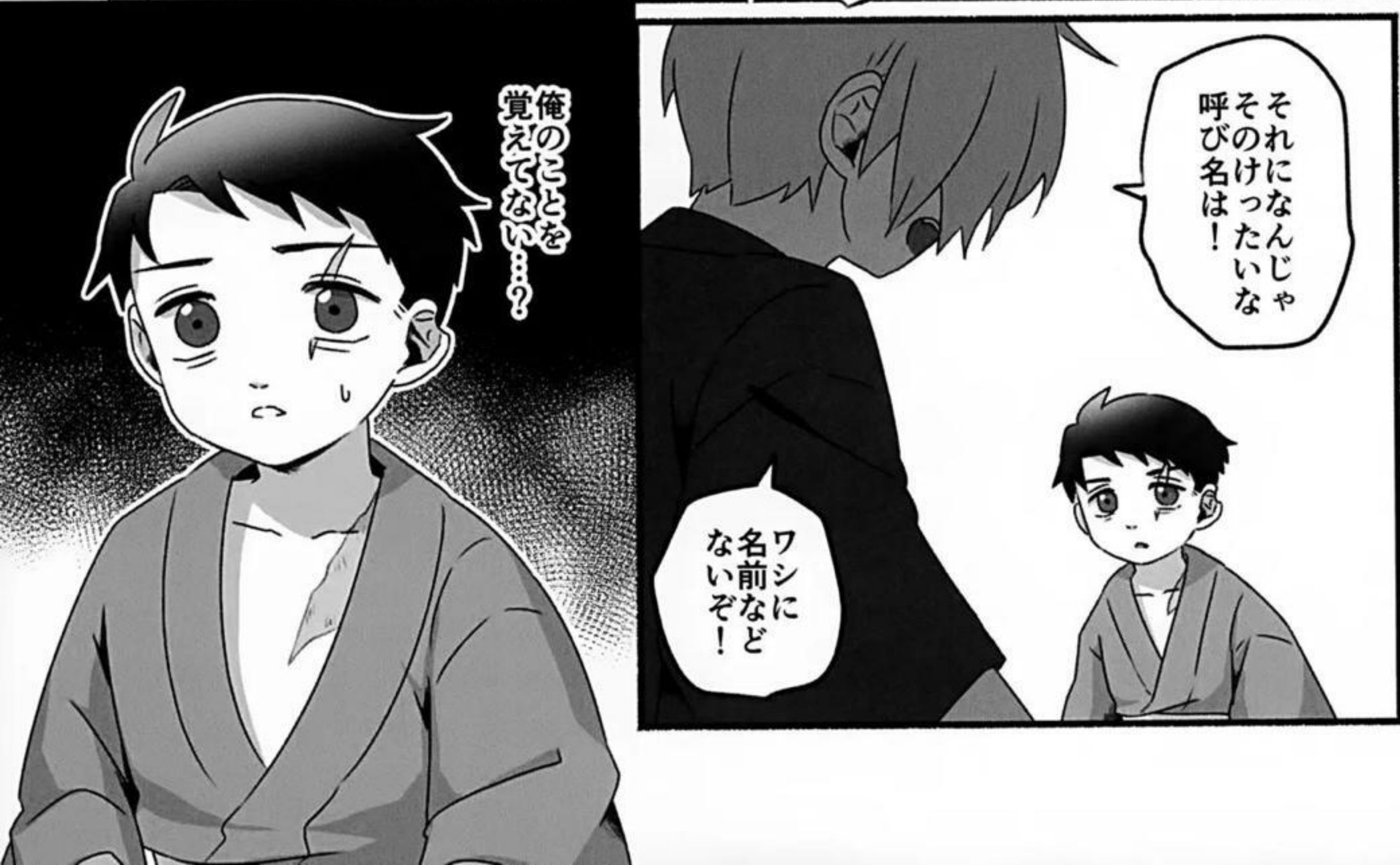
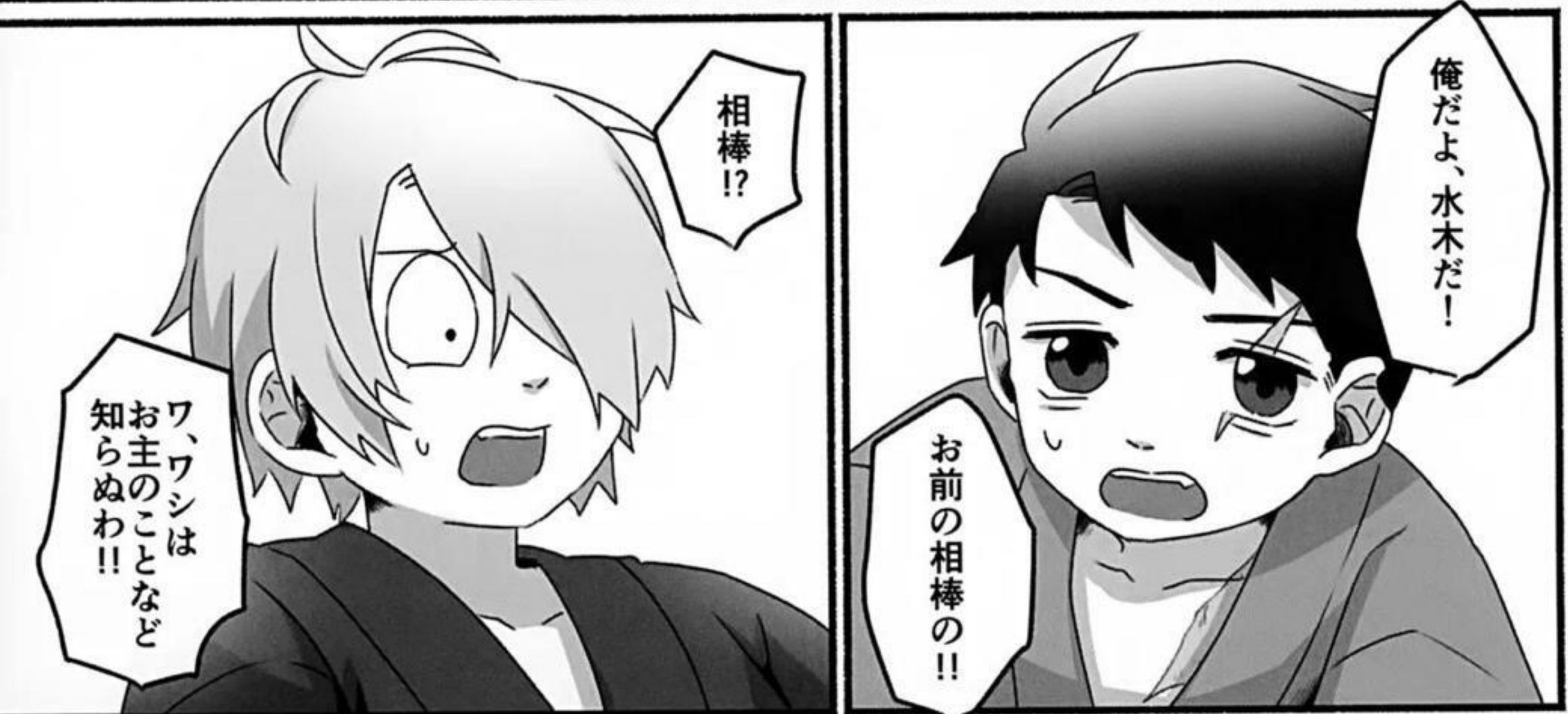
鬼太郎は
この家から
巣立っていった





寒い……







小さくないか？



ていうか
こいつ……



どういう
ことだ……？









わ、悪いか!?

ワシは
行き倒れて
いる者を
見殺しに
するよう
な外道
ではない
わ!

ああ
やっぱり

こい
郎は
違
い
な
い



お前が
助けて
くれた
のか?



ありがとなあ

……
変な奴じゃの

俺の身につて
何が起こつて
るか、さっぱり
わからん

でも、
今後のことは
明日考えよう！

今はただ

こいつの
そばにいたい

きゅん





あっ



ゲゲろー



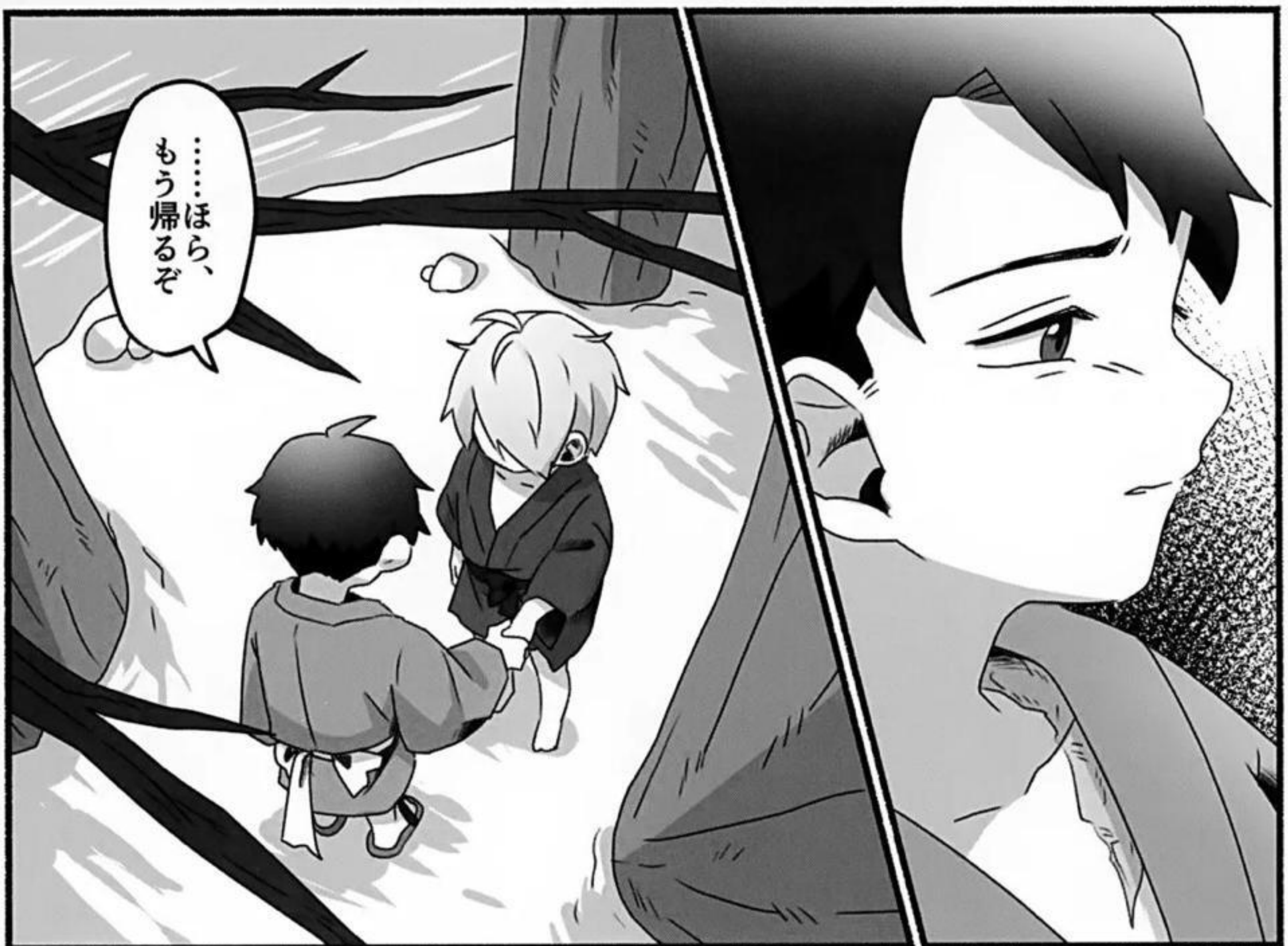
この化け物!!





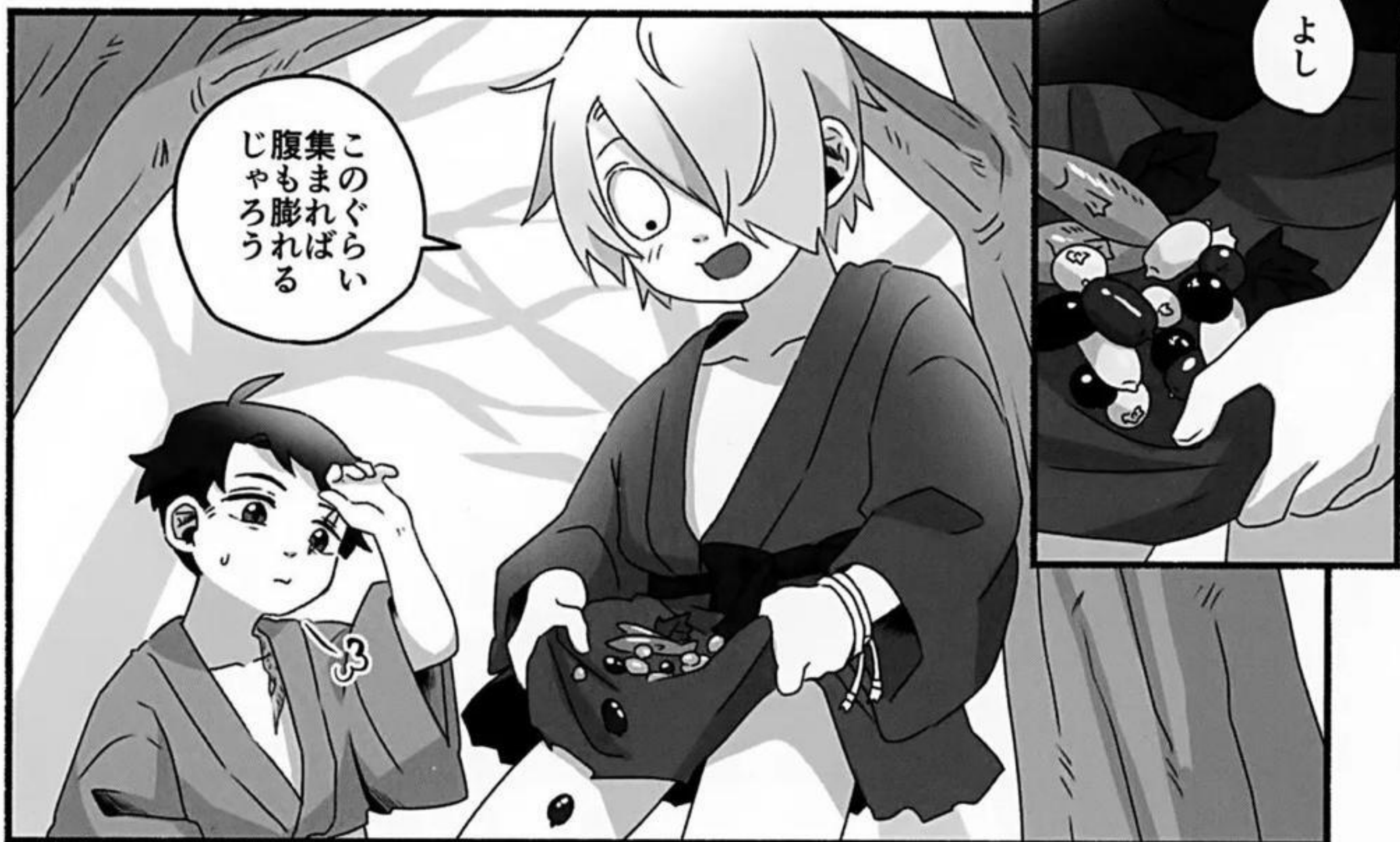












ぽいっ



冬は熊も
おらんし、
人間も入って
来んし、
快適なもの
じゃよ



じゃろ〜？



んっ
案外
いけるな



お前は、
人間が憎くは
ないのか？



なあ、ゲゲ郎

？



欲深いくせに
弱くて、
たった一人の
相棒すらも
守れない



俺はずっと
後悔してきた

自分が
人間であること



……たしかに、

ワシら幽霊族は
人間に住処を奪われ、
こんなにも数を
減らしてしまった



お前は、
あれだけの
ことをされて、
人間を憎いとは
思わないのか？



憎んでいた時期が
なかったかと言え、
ウソになるじやろう



お主のようにな



じゃがな
水木よ

傷つけ奪う者
がいる一方で、

弱き者の
ために怒り、
悲しむ者
もいる









なぜ
泣いておる
のじゃ？



俺は、

お前のような
美しい存在を
他に知らない

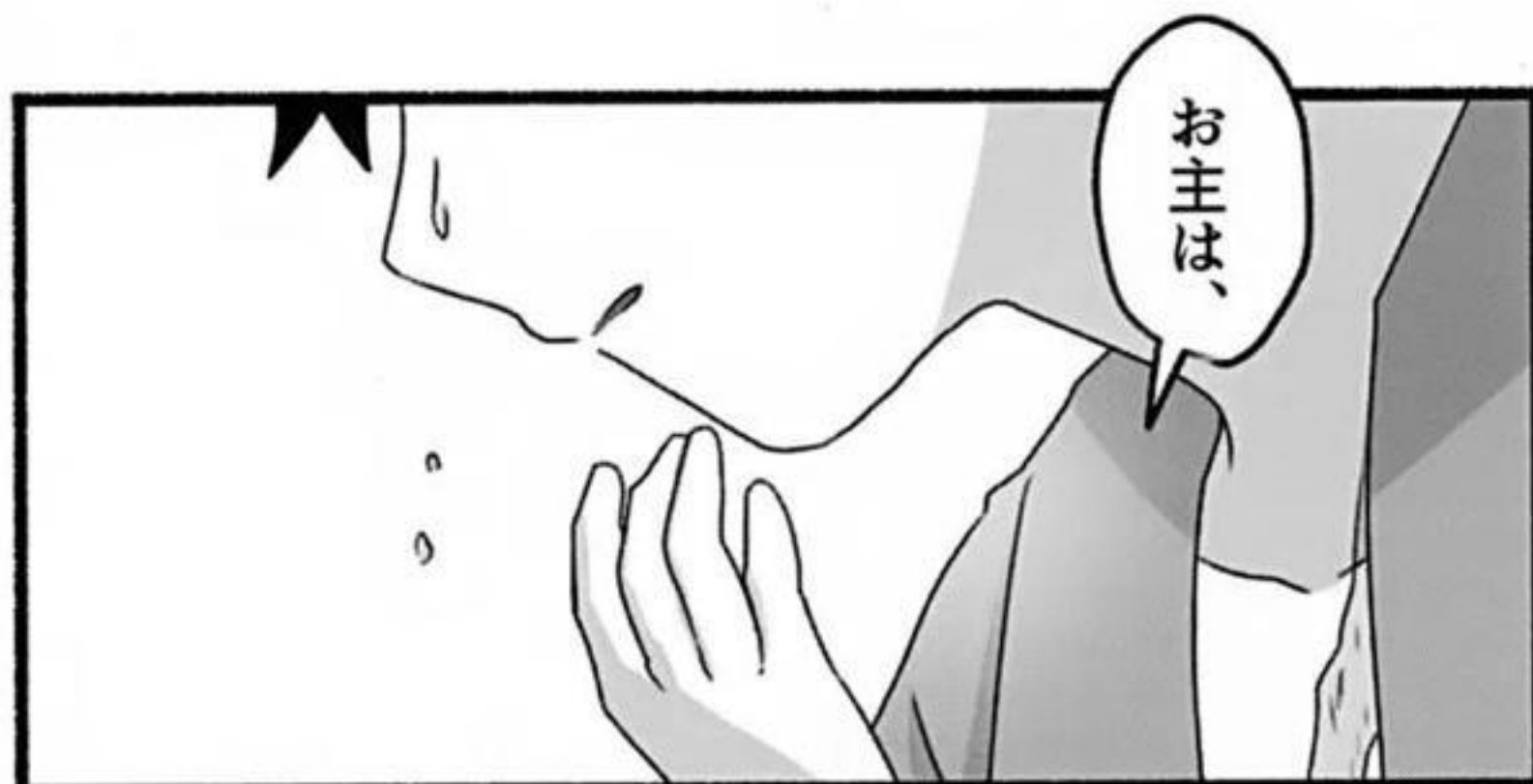


俺はいつも
何もできないっ



お前が
あんな奴らに
はあざないに
なれない

なのにっ…











ゲゲ郎の肌が、
俺の熱で
薄紅に染まる

こんな
煽情的な姿を
前にして…

思いを
抑えられ
だわけない
だろ…っ

ゲゲ郎っ…

好きだ

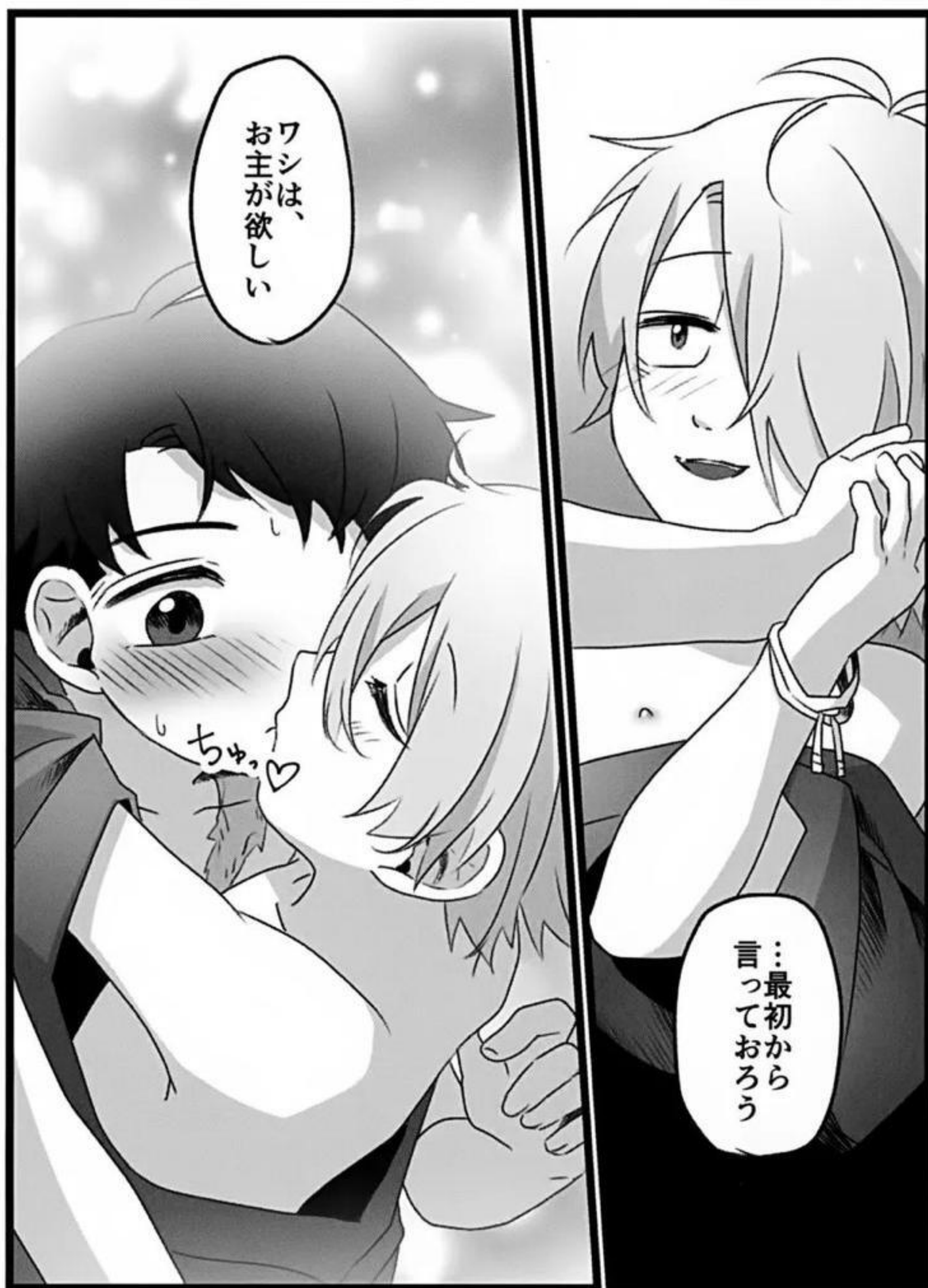
へ？

ずっと
好きだった…

何年も何年も

どっ
どうしたんじゃ
急に…っ









いいや…
相変わず、
みんな心貧しく
苦しんでるよ

でも、

俺は
そんな世界でも
お前と出会えて、

愛を知ること
ができたんだ

……そうか

お主が
生きる未来は、

さぞかし
美しいの
じゃろうなあ



お前と見る景色なら、
全てが美しいよ



どんなに
苦しい世界でも

どんなに
冷たい時代でも





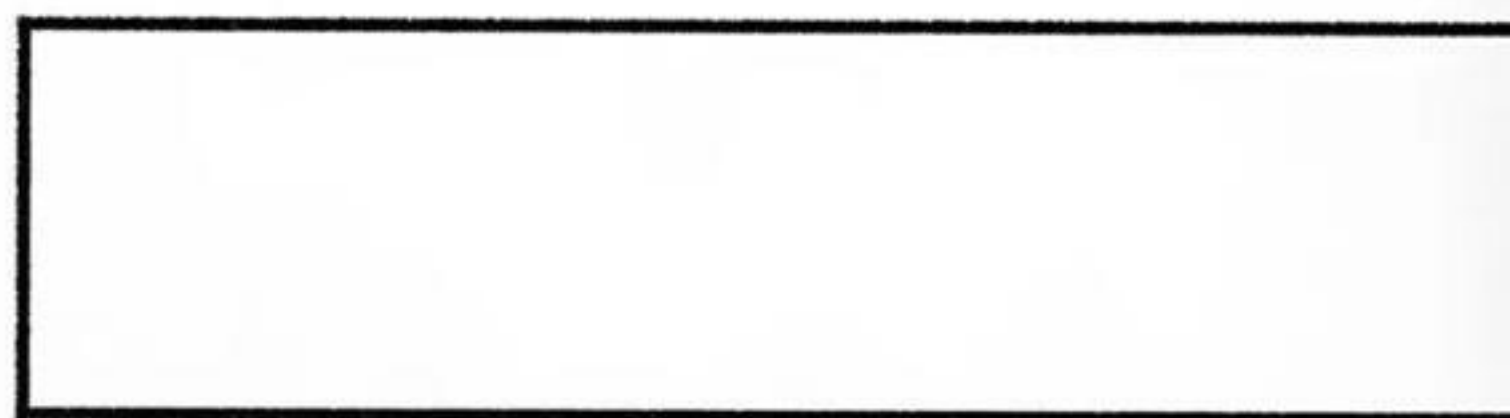


今度は俺がつ…
俺が絶対に
お前を守るから…っ

必ず

お前を
迎えに
行くからっ

だから、
どうか俺を
覚えていて













さあ、
共に未来を
生きよう

凍てつくような
冷たい街に

もうすぐ、
春が訪れる。

お手にとっていただき、ありがとうございます。ショタの人、ミツイロです。今回も好き放題、ショタ×ショタを描きました。

今回は、冬の季節を舞台にした水父をお送りさせていただきました。前回は夏の父水だったので、今回は冬の水父にしよう！という安直な考えです。お話は繋がっていないですが、表紙が対になるように似た構図で描かせていただきました。

さて本編についてですが、この物語は、生きる氣力を失っていた水木が、生きたいと思ったことにより現代に帰ってくる流れになっています。記憶を取り戻した水木はあの村で亡くなった父に想いを馳せ、「ゲゲ郎がいない世界では生きていけない」「お前のところへ行く」と呟きます。水木はあの世を意図しての発言でしたが、結果的には過去に戻ることで、父との再会を果たします。紆余曲折を経て、水木が「お前とともに生きていきたい」と願ったことで現代に戻ってきますが、そこにはあの日失ったはずの父の姿がありました。「父がいる世界」こそが、水木の生きる条件だったんです。幼い頃、不思議な友達と交わした「必ず迎えに行く」という約束を、父はずっと覚えていたのでしょう。

水木がなぜ過去に飛ばされたのか。それは、水木に死を選択してほしくない父の加護だったらいいなと思っています。お互いが「お前と生きていきたい」「お主には未来を生きてほしい」と想い合った時、双方の願いが叶うような奇跡が、起こったのかもしれませんがね。

拙い部分もたくさんあったかと思いますが、少しでも皆様の心に残ることができたのなら幸いです。またどこかでお会いしましょう！本当にありがとうございました！

ミツイロ

「未来への約束」

【発行日】2024.10.27 鬼奇怪会 2

【発行者】ミツイロ

【連絡先】mail：dozin.mizuiro2000@gmail.com

X(Twitter)：@mizuiro2000

pixivID：12406414

【印刷所】緑陽社 様

匿名のご感想は
こちらまで↓



Wave box

